

研修名	3) 新人助産師合同研修		
開催日時	令和6年7月27日(土)～令和7年1月23日(木)	9:30～16:30	
研修形態	集合		
受講者数	新人助産師合同研修	延46名(会員11名 非会員35名)出席率85. 2%	定員 20名
	公開講座	延19名(会員14名 非会員5名)	定員 各5名
対象	助産師 公開講座は周産期に関心のある看護職		
ねらい	新人助産師が、安心・安全な助産ケアを提供するために必要な基本的知識や技術、態度を学び、各職場において実践に活かすことができる。また、新人の交流を図り、主体的にキャリアアップに取り組むことができる。		
講師	プログラム参照		
内容	プログラム参照		

1. プログラム

開催日	テーマ・時間	内容	方法	講師
【公開講座】 7/27(土) 講義：5.0H	9:30～12:00 医療安全と助産記録*	医療安全の基本的な知識と法的根拠としての助産記録の在り方を学ぶ	講義	高知赤十字病院 看護師長 眞鍋 敦子
	13:00～15:30 CTGによる胎児心拍モニタリングの基礎知識*	CTGによる胎児心拍モニタリングの基礎知識と判読について学ぶ	講義	高知県立あき総合病院 産婦人科部長 池上 信夫
	15:30～16:30 交流会【新卒助産師対象】	他施設の新人助産師と交流	GW	助産師職能委員会
【公開講座】 9/28(土) 3H	9:30～12:30 助産倫理*	助産師の職業倫理について学び、倫理的感応力を高める	講義	高知県立大学看護学部 教授 嶋岡 暢希
【公開講座】 10/12(土) 6H	9:30～12:30 新生児のフィジカルアセスメントとディプロップメント	フィジカルアセスメントとは新生児をとりまく家族への支援環境調整について	講義	高知医療センター 新生児集中ケア認定看護師 山本 晃子
	13:30～16:30 社会的ハイリスク妊産婦の看護	社会的ハイリスク妊産婦の看護及び心理的危機に直面した妊産婦と家族の看護について学ぶ	講義	高知大学医学部附属病院 助産師外来 助産師 公文典子
【公開講座】 12/7(土) 6H	9:30～12:30 ハイリスク妊産婦の治療と管理	ハイリスク妊産婦の病態について学び、管理について知る	講義	高知大学医学部附属病院 産婦人科 准教授 永井立平
	13:30～16:30 母乳育児支援の理論と実際	母乳育児の意義・効果について理解できる乳房ケアの実際を学ぶ	講義	香川県助産院ゆるり 助産師 鈴木 佳奈子
1/18(土) 3H	9:30～12:30 専門職に求められるコミュニケーション	言語的・非言語的コミュニケーション技法について理解する。相手の思いを汲んだ対応ができる	講義	国立病院機構高知病院 畑中 麻里子
【公開講座】 1/23(木) 5H	9:30～10:30 社会資源を活用した産後の継続支援part1	母子保健関連施策について知る	講義	高知市こども未来部母子保健課 保健師 小松 千穂
	10:30～12:30 社会資源を活用した産後の継続支援part2	産後ケア事業等の社会資源を活用した母子への支援について学ぶ	講義	助産院はぐはぐ 助産師 森木 由美子
	13:30～15:30 交流会【新卒助産師対象】 リフレクション	1年間のケア実践を基に振り返り、助産師としての成長に気づく	GW	助産師職能委員会

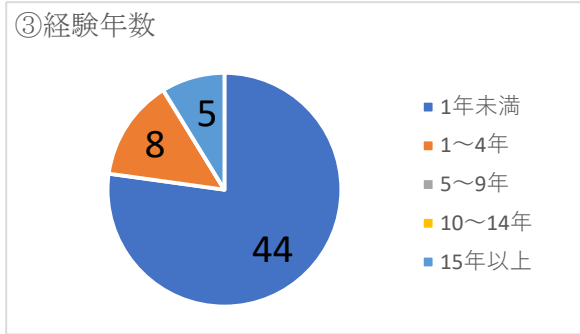
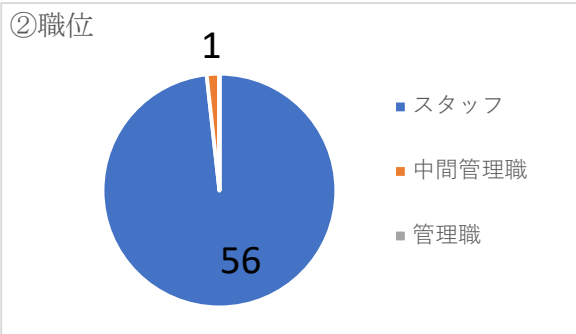
* CLoCMiP レベルIII 認証研修

2. アンケート結果 参加者 延65名(助産師58名 看護師7名)アンケート回収率87.7%

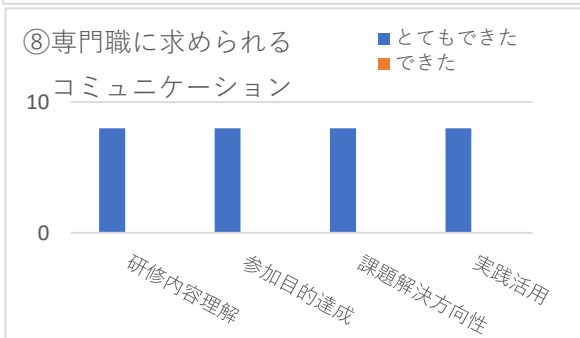
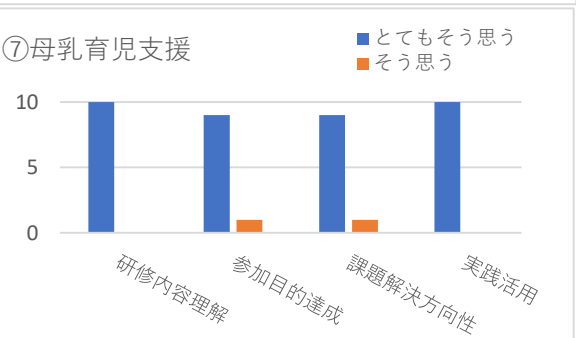
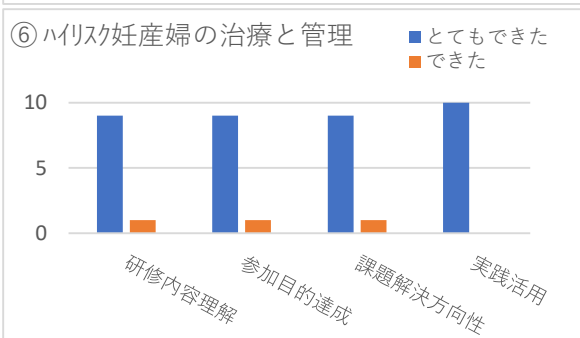
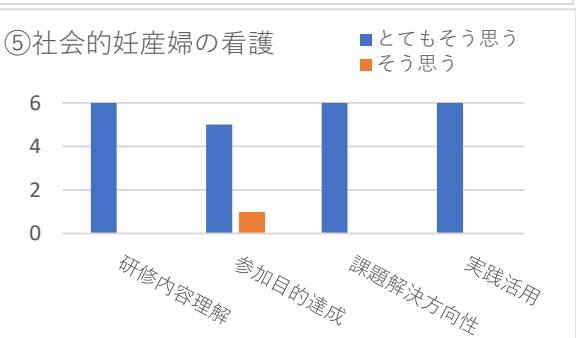
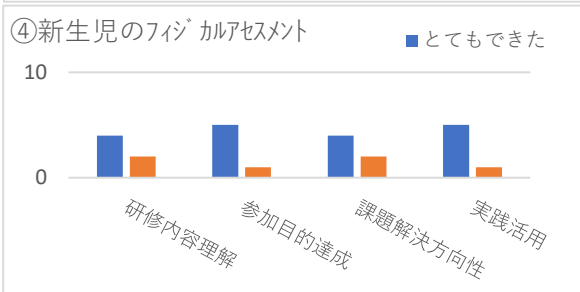
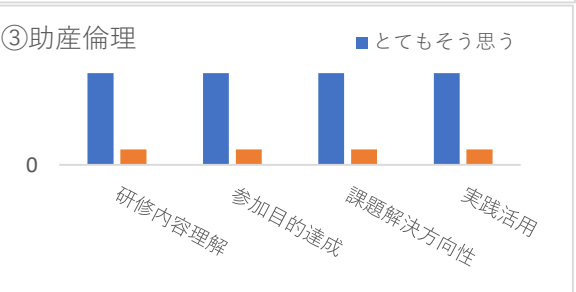
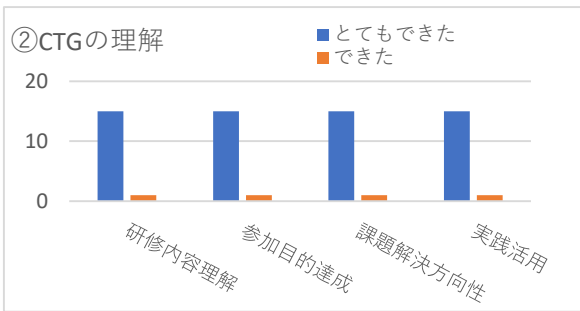
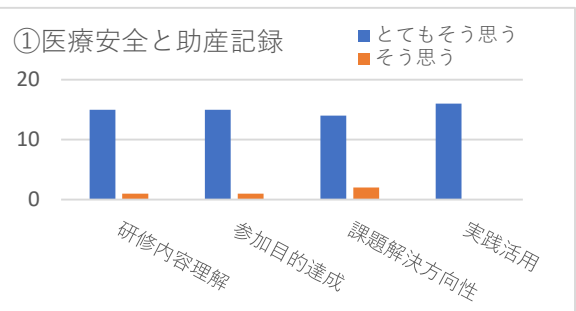
※アンケートはGoogleフォームを使用したオンライン上の質問と回答(重複回答したものを含む)

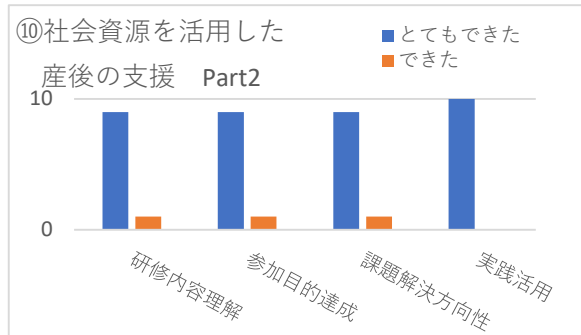
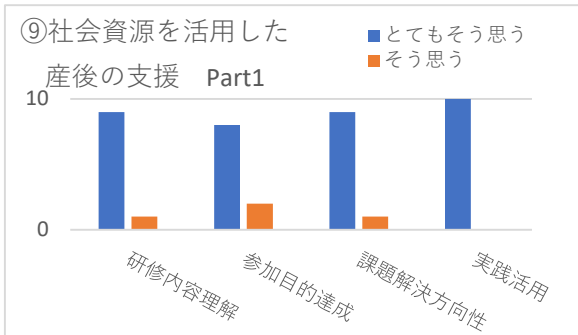
1) 属性

①職種 助産師 52名 看護師 5名



2) 講義の効果





①医療安全と助産記録

- ・看護記録の重要性を改めて理解し、具体性や整合性に留意していきたいと思った

②CTGによる胎児心拍モニタリングの基礎知識

- ・CTGの判読は現場でも困ることがたくさんあったが、実践で使えるようにしたい
- ・知識の整理になってとても良かった
- ・CTGは繰り返し復習して正常・異常の判断がしっかりできるようにしていきたい

③助産倫理

- ・高知県の周産期医療について理解を深めることができた
各地方圏が抱える課題についても知ることができ、学びが得られた
- ・グループワークにて自分には考えられていなかった意見を取り入れることができた
自分自身がモヤモヤしている部分は共通しているためその時どのような行動を取れば良いのか毎回考えて行動していきたい
- ・倫理的感性について、今医療現場で感じることを大切に、新人だからという視点でも先輩と共有したいと思った

④新生児のフィジカルアセスメントとディプロップメント

- ・ハイリスク新生児は現場であまり見ないので勉強になった

⑤社会的ハイリスク妊産婦の看護

- ・社会的ハイリスクの妊婦さんへの支援について、改めて考える機会ができました
- ・社会的ハイリスクの妊産婦を対象とした情報収集やケアなどを考える機会がまだなく、どのような背景を捉えるべきかを振り返っていきたい

⑥ハイリスク妊産婦の治療と管理

- ・ハイリスク妊婦の管理が多い病院であるため、ハイリスク知識の理解を深めることができた
- ・知識をしっかりと振り返って実践に繋げていきたい

⑦母乳育児支援の理論と実際

- ・授乳支援について事例を用いて介入を考える事ができ、解決の糸口を得ることができた
- ・知識をしっかりと振り返って実践に繋げていきたい
- ・伝え方一つでお母さんの気持ちに寄り添う母乳育児支援ができると学びました
- ・母乳支援に困っていたのでとても参考になりました
- ・学生時代に母乳の勉強が全然足りていなかったと、感じました
- ・とても実用的で説得力のある内容で、活かしたいと思いました
- ・もう少し業務に慣れてきて、もっと日々の支援に活かされる余裕ができてから、同じ内容を勉強したい

⑧専門職に求められるコミュニケーション

- ・コミュニケーションについて中立的な立場で考えることの重要性を感じることができました。
- ・コミュニケーションにおける自分の特性を知ることができ、意識していきたいと思いました。
- ・グループワークを通して、実際困ったことのある場面をじっくり考えることができ、臨床で活かしたい
- ・グループワークや他の人と話し合う時間が楽しかったし、実際に体験することで理解が深まった

⑨社会資源を活用した産後の継続支援 Part1・2

- ・産後ケアについて、曖昧なイメージでしか理解できていなかったことに気づき、具体的にどういったことに産婦が悩み、どんなケアが行われているのか学ぶことができた
- ・入院中から、それらの悩み事を予測して支援していくことができるようになりたい
- ・産後ケアについて知らなかったことがたくさんあったので、今後入院している褥婦さんへ社会資源を説明する際に今回の学びを活用したい
- ・産後ケアの実態について今まで明確に理解できていなかった
- ・社会的な背景と産後ケアについて詳しく理解することができた
- ・退院後の母子の状態を予測して入院中にできるケアを提供できるよう、入院中の関わりや観察、アセスメントを充実させていきたい

4)実施してほしい研修について

- ・授乳介助や授乳のアセスメントについての講義や事例検討をもっとしてみたい

3.研修担当者コメント

周産期を取り巻く環境として、少子化が顕著な中、県内の分娩を取り扱う施設が減少し、周産期施設の集約化が課題となっている。そのような状況下、今年度県下産科施設に9名の新人助産師が入職した。中には所属施設の分娩取り扱い停止により、年度途中で他病院への転職を余儀なくされる新人助産師が発生した。

また、天候不良・講師都合等で5日間の研修日程が2度の変更を経て6日間となった。一方、今年度の新人助産師の研修受講率は、延48人(参加率88.9%)で例年度と著変なかった。

今年度、国を挙げての産後ケア事業の推進を受け、地域との連携について保健師講師より講義頂いた。受講生から「地域との連携の重要性が理解できた」「施設での育児指導に活かしたい」という声も聞かれた。

また、「今後臨床経験を積んだ後に、もう一度研修受講し振り返りたい」との声もあり、基礎的な研修内容の反復研修の必要性も感じている。助産師職能委員会において検討しながら新人助産師のキャリアアップに効果的な研修を検討していきたい。